



住吉各所圖會 三

ル 4
4795
3



住吉名勝圖會卷之三目錄

神宮寺由来

同寺年中行事

津守寺之圖

新宮之圖

浄土寺之圖

國基之社

鎮守之神

告儀之石

慈恩寺車返櫻

牀菜庵由来

廣田社之圖

星ヶ池由来

廣田社之圖

瑞龍寺之圖

...

門 4795
巻 3

土城之宮之圖

安倍野王子之圖

経塚之由来

萬代池之圖

播磨塚之由来

以上

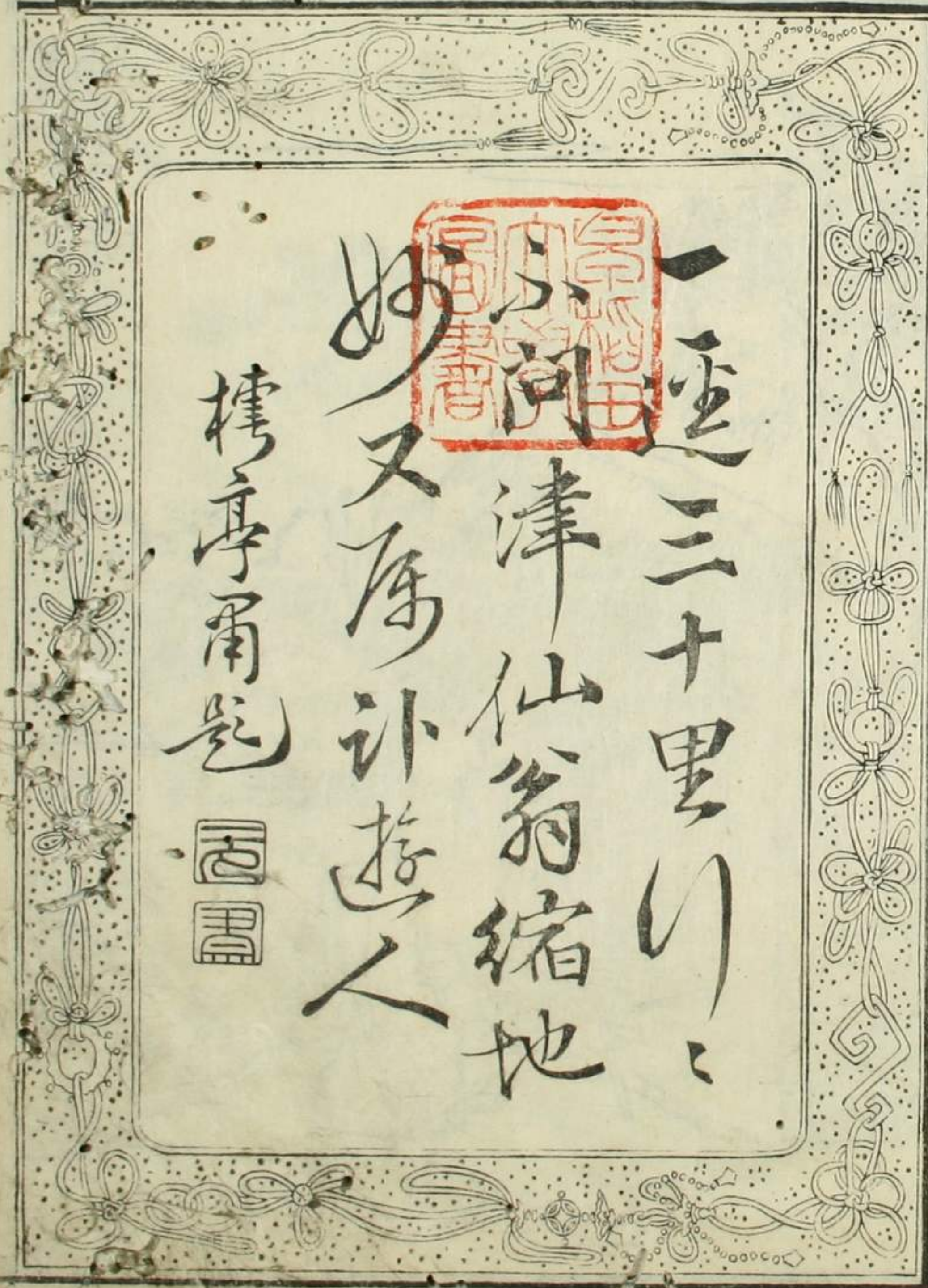
庚申堂之圖

松蟲塚由来

大名塚由来

小町塚由来

三ノ目一



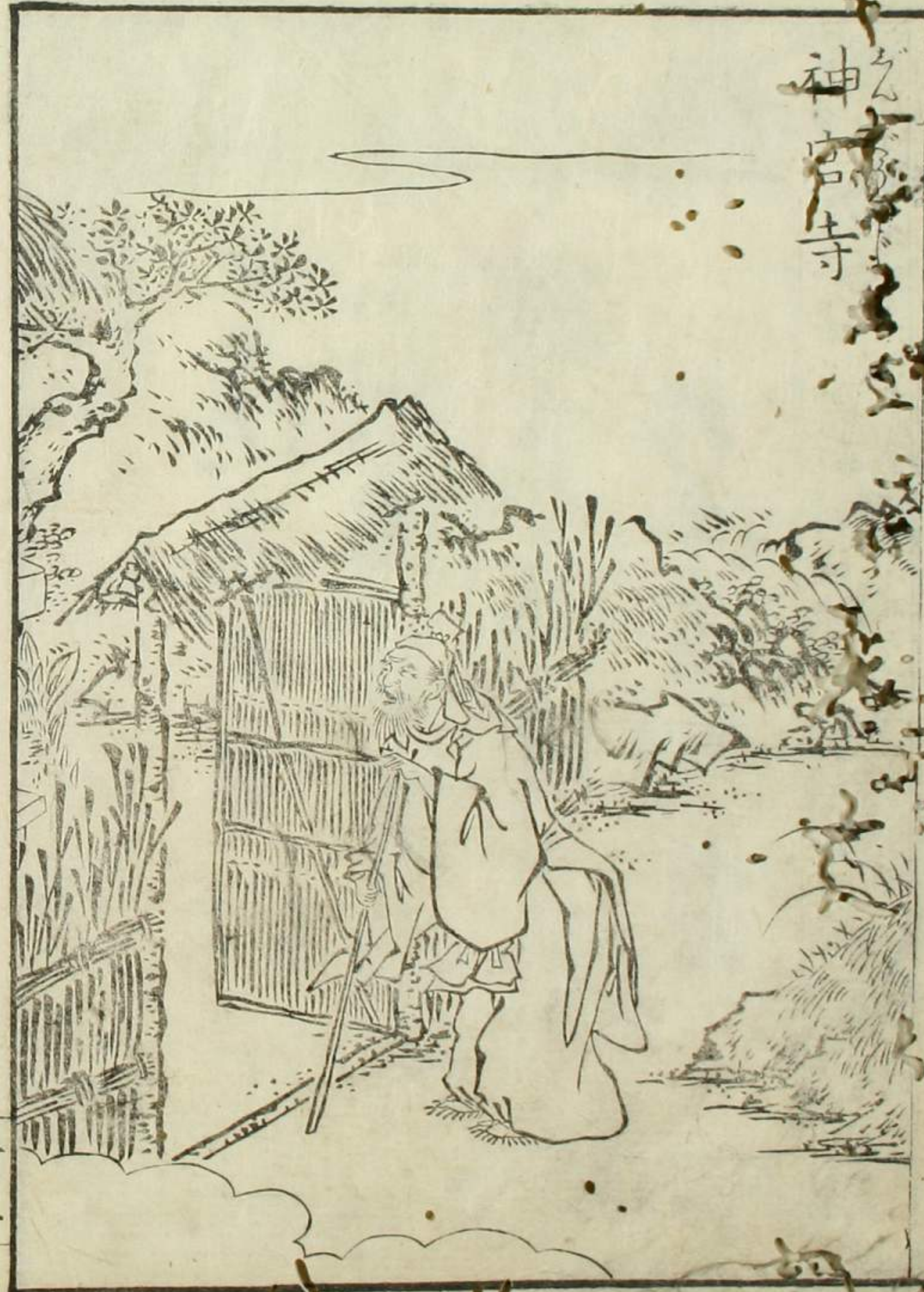
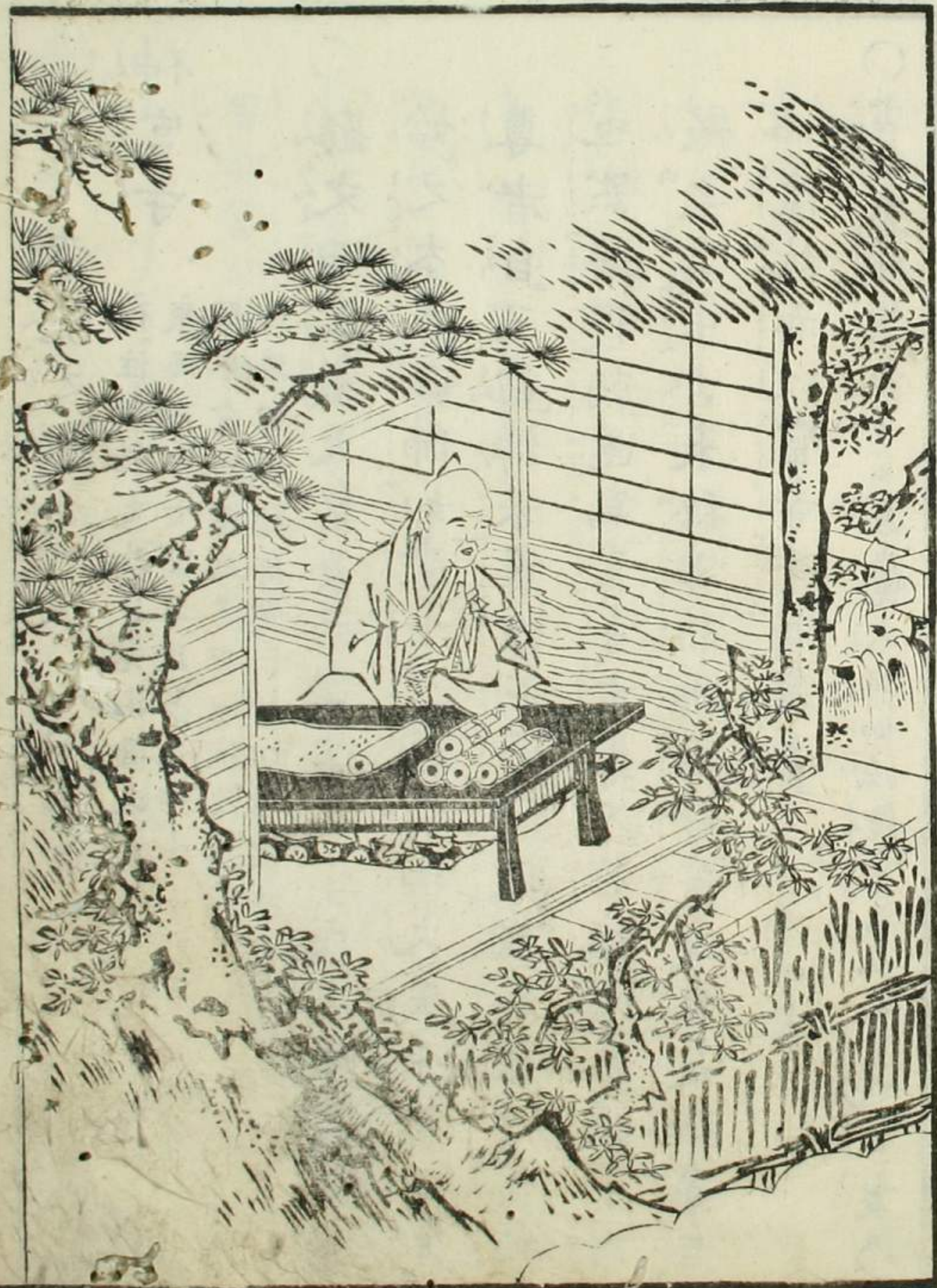
一重三十里ハ

津仙翁縮地

妙又為計遊人

樗亭甫起

印



神之宮寺

神宮寺

在任吉社之北日光街直未寺領三百六十石境内
東西六十七間五尺南北四十一間四尺佛堂八字
日本堂曰釋迦堂曰阿弥陀堂曰大日堂曰東塔曰
西塔曰求聞持堂曰一切經堂是也

○勘文曰孝謙天皇天平實字二年戊戌依靈告經
始之本尊藥師如來十二神將四大天王又曰本
尊者自三韓傳來尊像而所納彼國新羅寺佛頂
也然渡我朝遂為當寺本尊入石櫃以奉納于内
殿之上中古來秘佛而聊無發蓋矣元是新羅寺
佛像故亦以當寺号新羅寺

○古今著聞集ふらとく慈覺大師如法經書ふらとく時白髮乃

老翁杖たつとりて山よらのかりくろがわれくる一内
裏の守護といひ此如法經の守護と云年と高くなりて
くろふとむらとを宣ひちり難とてりひと尋れとまひ
住吉の神なりと名のりむひちり皇威も法威もそなり
ちり我任吉と四所皆一祈所の高貴徳王大菩薩亦
託宣よとく我と是境卒天内高貴徳王菩薩なり為國
家鎮護垂跡於當朝墨江邊松林下久送風霜時宿受
苦身當北方有一勝地願奏達公家建立一伽藍轉法輪
たれゆりて神宮寺の建立せられちりかり下界
昔時平仁王僧明達と令て朝敵藤原純友と討伐

僧明達



せし明達當寺の薬師佛のりて其靈驗掲ぐ終み純友誅せ
らる此奉元亨釈書にもほまひし見たりまこと五大尊の畫
像はう當寺の重寶として寶藏め納し

神宮寺年中行事

正月

○元日 本堂修正會自今日至七日

○二日 十講法事 ○三日 同上

○四日 結願法事 ○五日 於東塔四社御本地供

○六日 於西塔四社御本地供 ○七日 東西二坊御本地供結願

於本堂七日之結願年王寶印結願



每月廿五日
天神講

二月

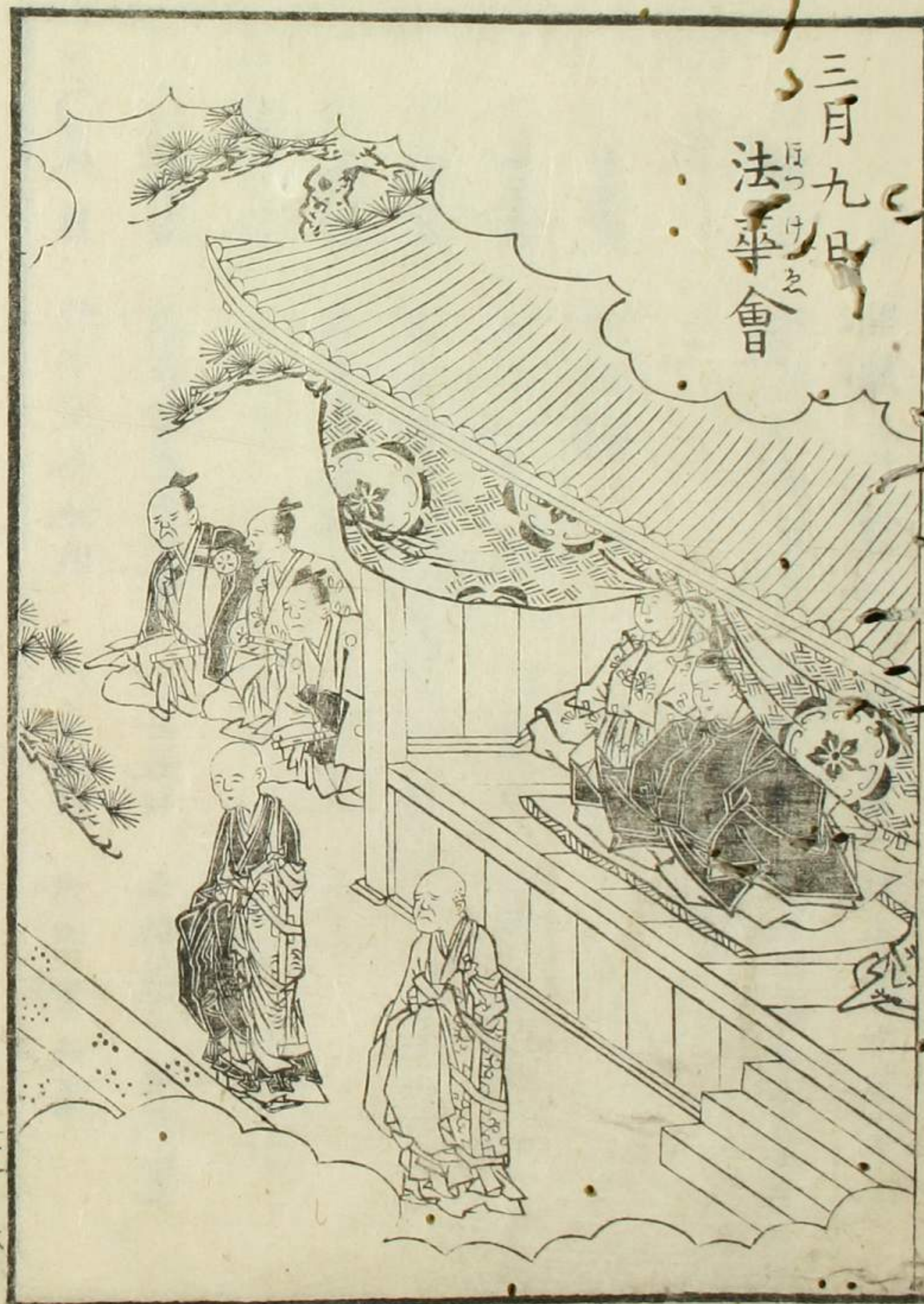
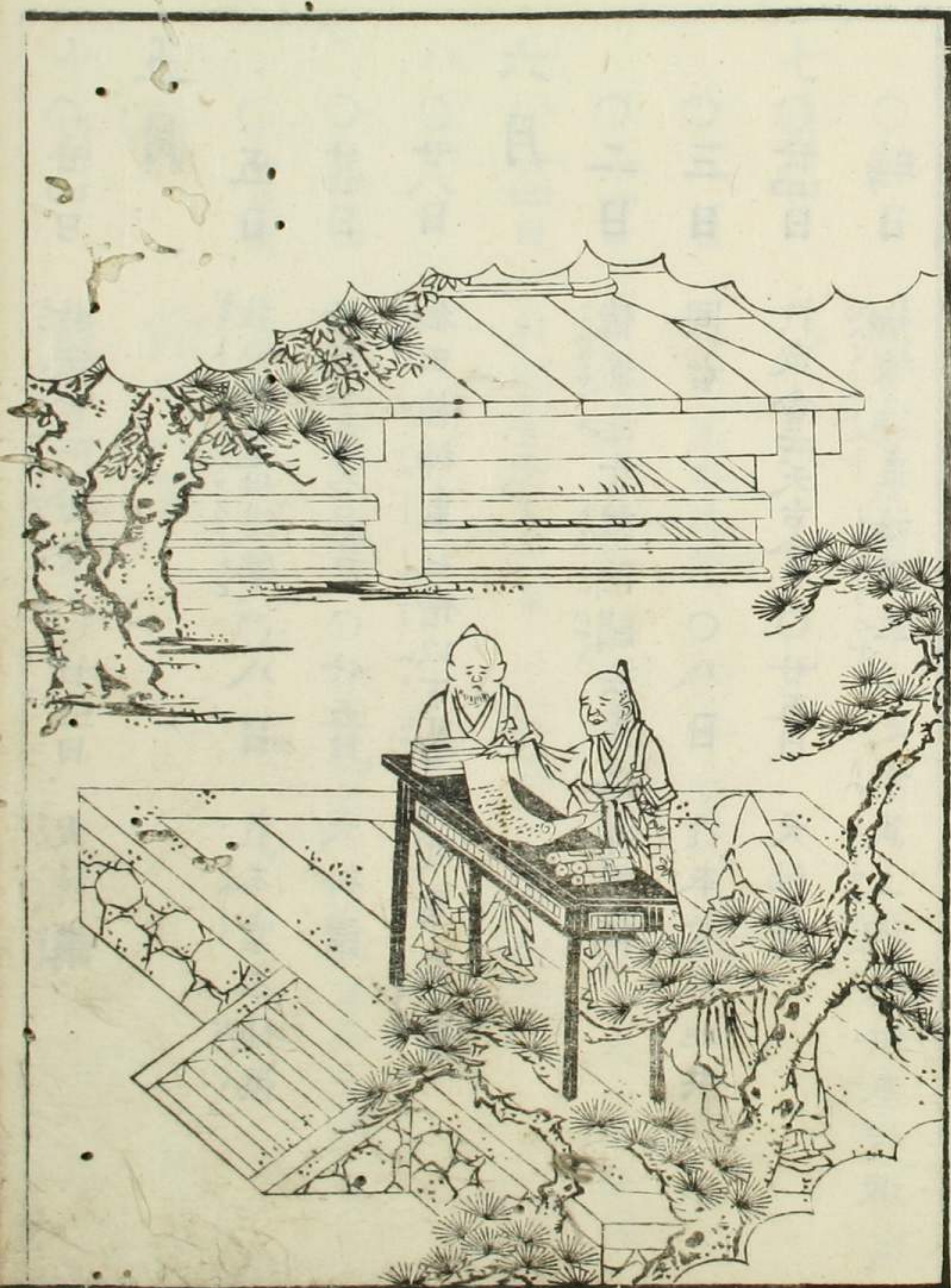
- 八日 於本堂御本地供月勤之
- 十日 於本堂護摩供
- 十四日 於釋迦堂普賢講。於東塔修正會。牛王寶印行法
- 十五日 於釋迦堂三五三味。於西塔修正會。牛王寶印行法
- 十七日 於本堂神供 ○十八日 觀音講法事
- 廿二日 於衆會所毘沙門天法修行
- 廿四日 於衆會所天台會法事執行
- 廿五日 天神講。與天神社內觀音堂法事。連歌會
- 卅日 於本堂護摩供

三月

- 八日 於本堂本地供 ○十五日 涅槃會法事
- 廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講。連歌會

四月

- 三日 本堂本地供 ○八日 同上
 - 九日 法華會於舞臺勒之社敷着座。和歌會
 - 十五日 舍利會 ○廿四日 於衆會所天台會法事
 - 廿五日 天神講
- 申日 ^{上之} 山王祭法樂法事 ○八日 於本堂安居百日法事
開闢。於釋迦堂同法事。於本堂本地供



○廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

五月

○五日 於東塔本地供護摩 ○八日 於本堂本地供

○廿五日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

○廿八日 御田植神事社僧以下着座式事數多

六月

○二日 傳教忌十講開闢法事法華講問

○三日 同右 ○八日 於本堂本地供

○廿五日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

○晦日 御拔神事社僧年少之者馬上神輿供奉於塚病

院宣命法事

七月

○八日 於本堂本地供 ○十日 施餓鬼法事

○十四日 於本堂安居百ヶ日結願 ○於釋迦堂法事日中結願

○廿四日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

八月

○八日 於本堂本地供 ○廿四日 於衆會所天台會

○廿五日 天神講

九月 前月同事

十月 前月同事

十二月 前月同事

十二月

○八日 於本堂本地供 ○十五日 於本堂三千佛名經

○廿日 於衆會所天台會 ○廿五日 天神講

右神宮寺年中行事大槩

津守寺 住吉郡住吉社南東より

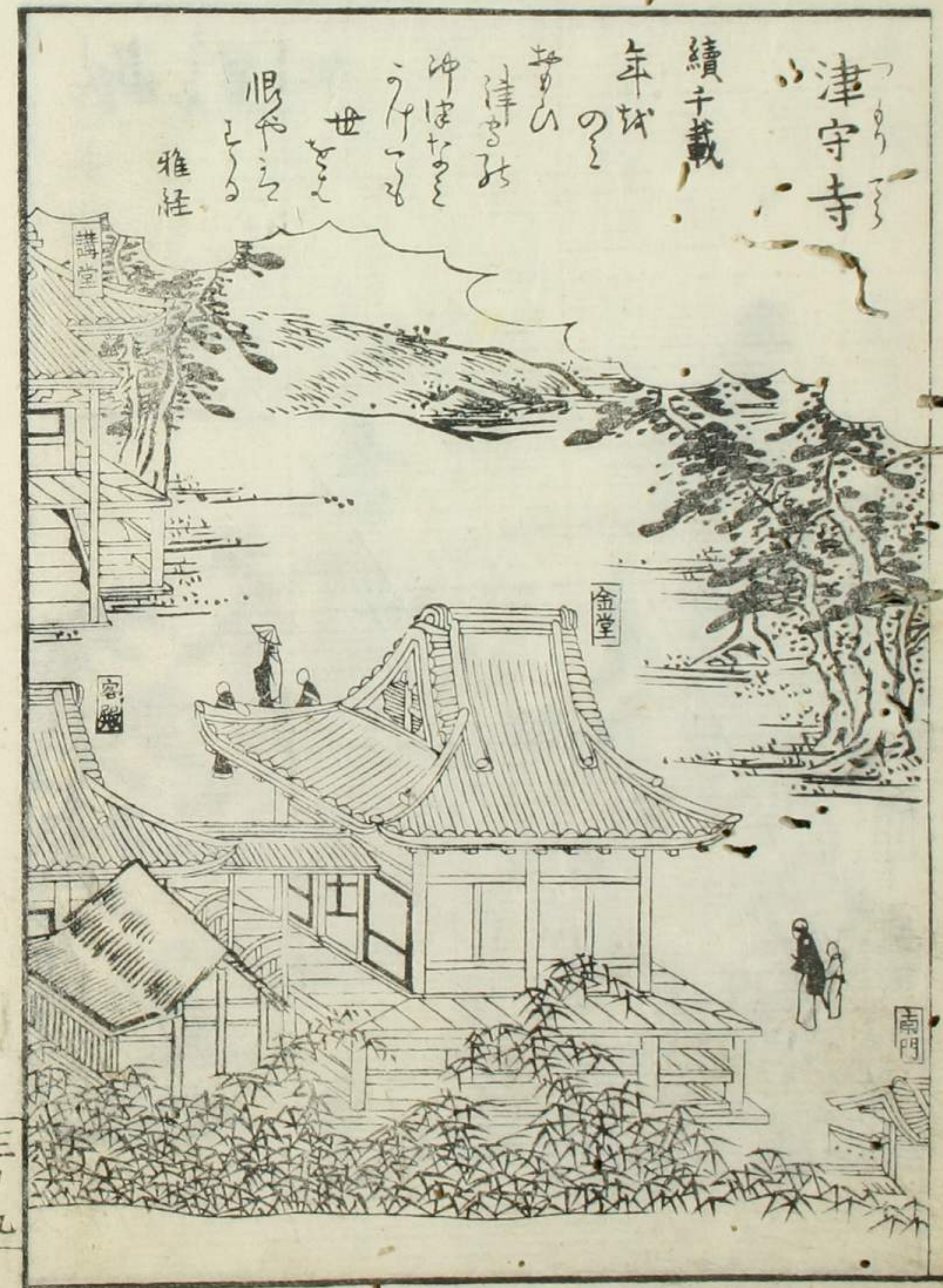
當寺之礎 神天皇帝延喜元年二月草創本尊之藥師
如來住吉の浦より出現其靈像なり 或曰因幡國入
海中より出現と云ふりよて因幡藥師の号あり洛陽
因幡藥師と同様の尊像なりと云傳ふ

新宮社

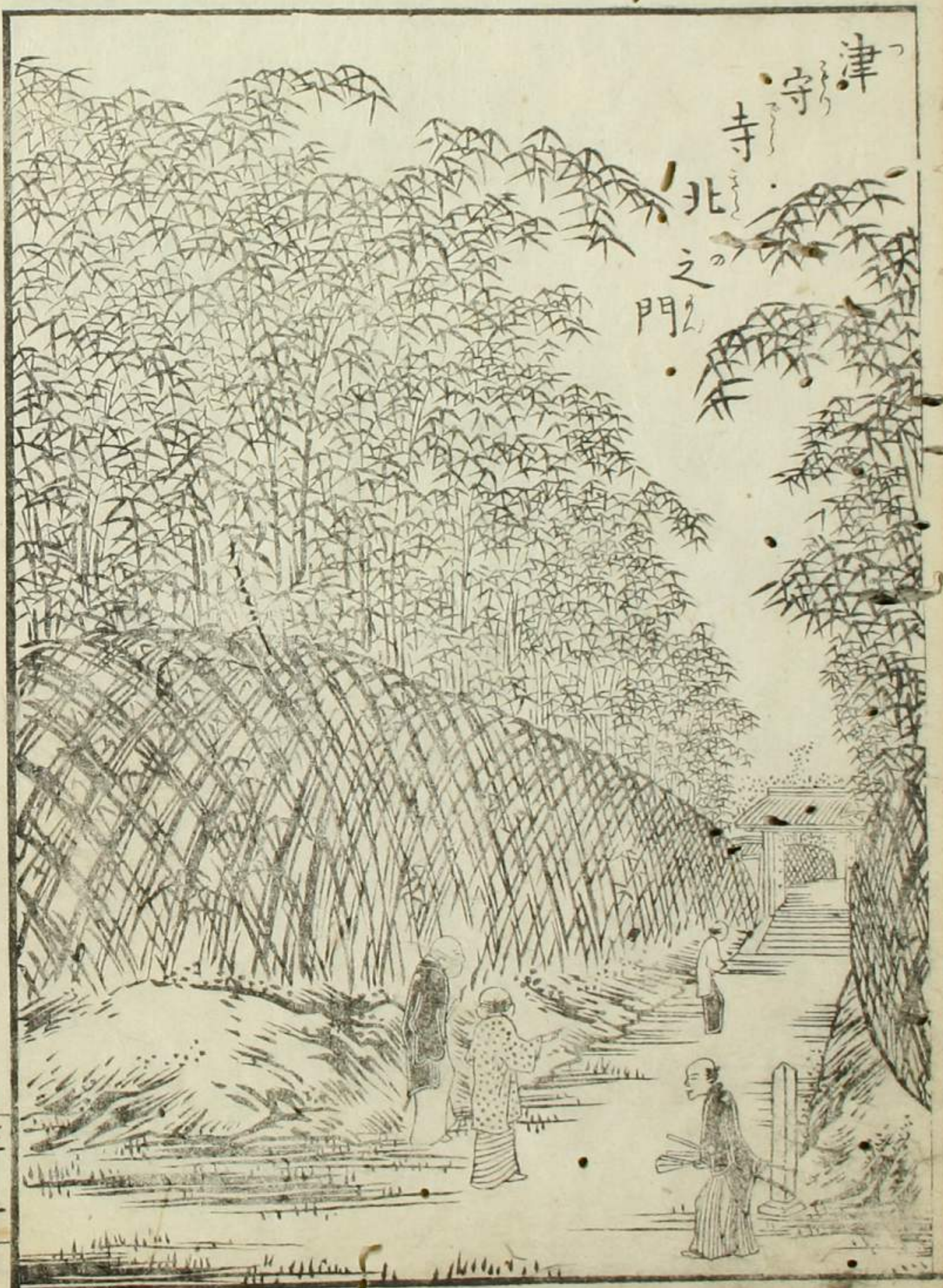




新勅
 頼めつ
 津守
 うみつ
 かの
 寺度



津守寺
 續千載
 年城
 津守
 世
 恨
 雅経



津守寺
北之門

莊嚴淨土寺

住吉社之東より

朝日山淨土寺と号し本尊は大聖不動明王弘法大師
 の所作甚湛壺彫刻の愛深明王釋尊四牙五色の佛
 舍利を安置しむ。朱雀帝の浄宇將門純友誅伐時
 時當寺の尊像より奇持が場へ終に逆臣誅し伏し白
 河院の浄宇津守國基勅命をうむり當寺は再建に
 時如土中より三尺有糸の金れを堀出せり其銘曰七
 寶莊嚴極樂淨土と書り仍て境内八町四方や一々
 都卒内院を表し伽藍と建莊嚴淨土寺の号を賜ふ
 堀河院の浄宇延慶宮道式賢卿と勅使と講師横川



雪の
 白あたる
 四時乃
 境内
 伊

本堂

天台堂

園門



莊嚴浄土寺

梅八重梅乃
 彌生の中をすま
 むれする人
 青葉りなる
 ほととぎす
 子一は
 かさばら

石門

慶朝僧都讀師西塔宗心阿闍梨等をして同穴供養ありしより代々大伽藍に靈場なりしが今亡より其後後村上天皇先帝御追福にむかふ行幸しむい懐舊乃御製歌宸筆等當院の寶藏に納む龜山院の市宇南都西大寺乃末院と成時文龜元年中興岡山と興正菩薩かり

國基社 同寺内より

住吉の神と和守の達人かり國基の守よ

唐墨かか玉章はん地々鷹鳴くく夕園のそと此より國基の唐墨の神と云傳ふ

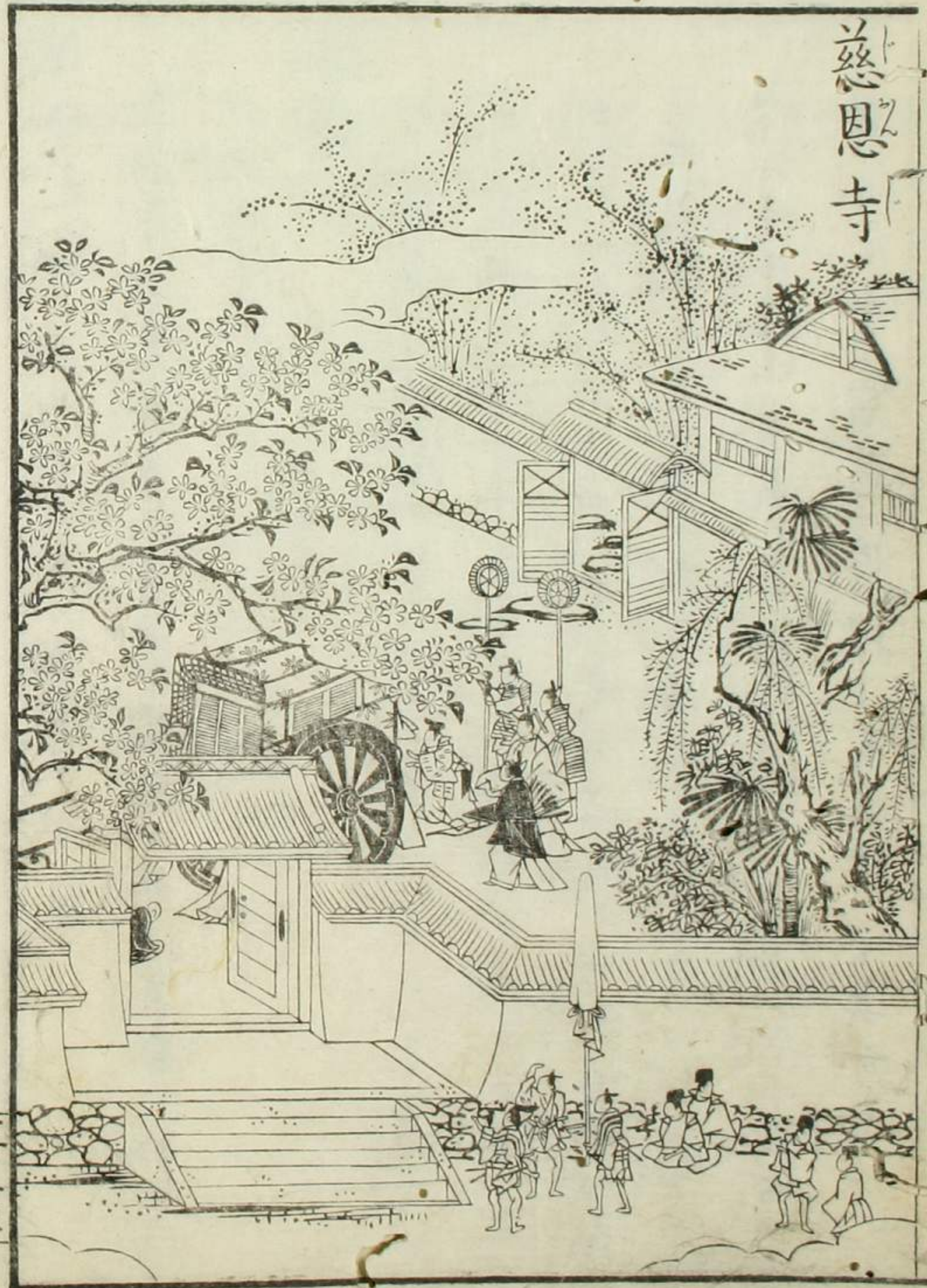
鎮守之神 同寺内より 辨財天社

祭神倉稻鬼神本地垂迹の靈像に佛工定朝乃作當守の鎮守とん

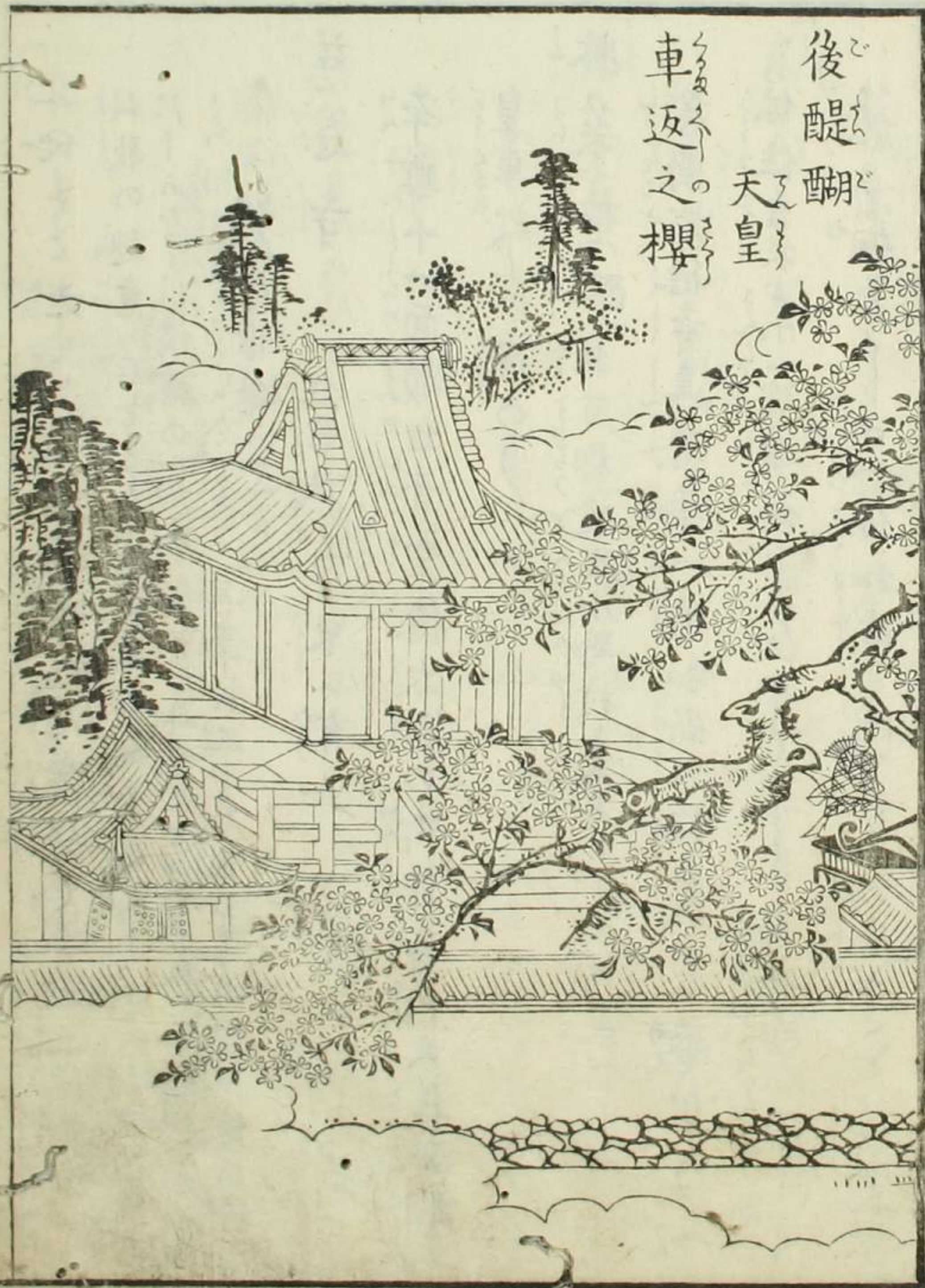
告礪石 同寺内より

當伽藍建立の時檀石を紀州玉津島かむとて津守の國基和守を奉りおれい神足に感得して住吉に礪石を寄しと告むい好む所の石も住吉礪石打揚伽藍成就しぬ其れ余まふ石成る故告礪石とりなり一説は是を今の正印殿の庭造作の時國基玉津島と和守をより得たり石を當院に寄附しりともいふ其奇を

慈恩寺



後醍醐天皇
之櫻車返



年終も老もせりしとわすれ浦幾代も成りぬ王は島姫
此歌の趣意は石と云ふ事あり此歌歌文も見へば其詠
たしかなる清輔の歌草集に此こととせられしも歌文の意
と相違れし今爰に其事改正して用なされし倍傳の傳を
記し見ん人用捨るべし

慈恩寺

住吉社より東に有

奉尊十一面觀世音聖德太子の御作寺内は後醍醐天
皇車駕の櫻あり

牀菜菴跡

住吉郡遠里小野村にあり

紫野大徳寺真珠菴一休和尚の住みたる菴なり一
休住吉系流通夜もひらりみまき老僧一人月一
籠り居りし一休和尚又同てりし和尚とて詠ふや

と一休のこの詠として言下み

来て思まぬ家も火宅の宿なめ何位よと人のりも覽

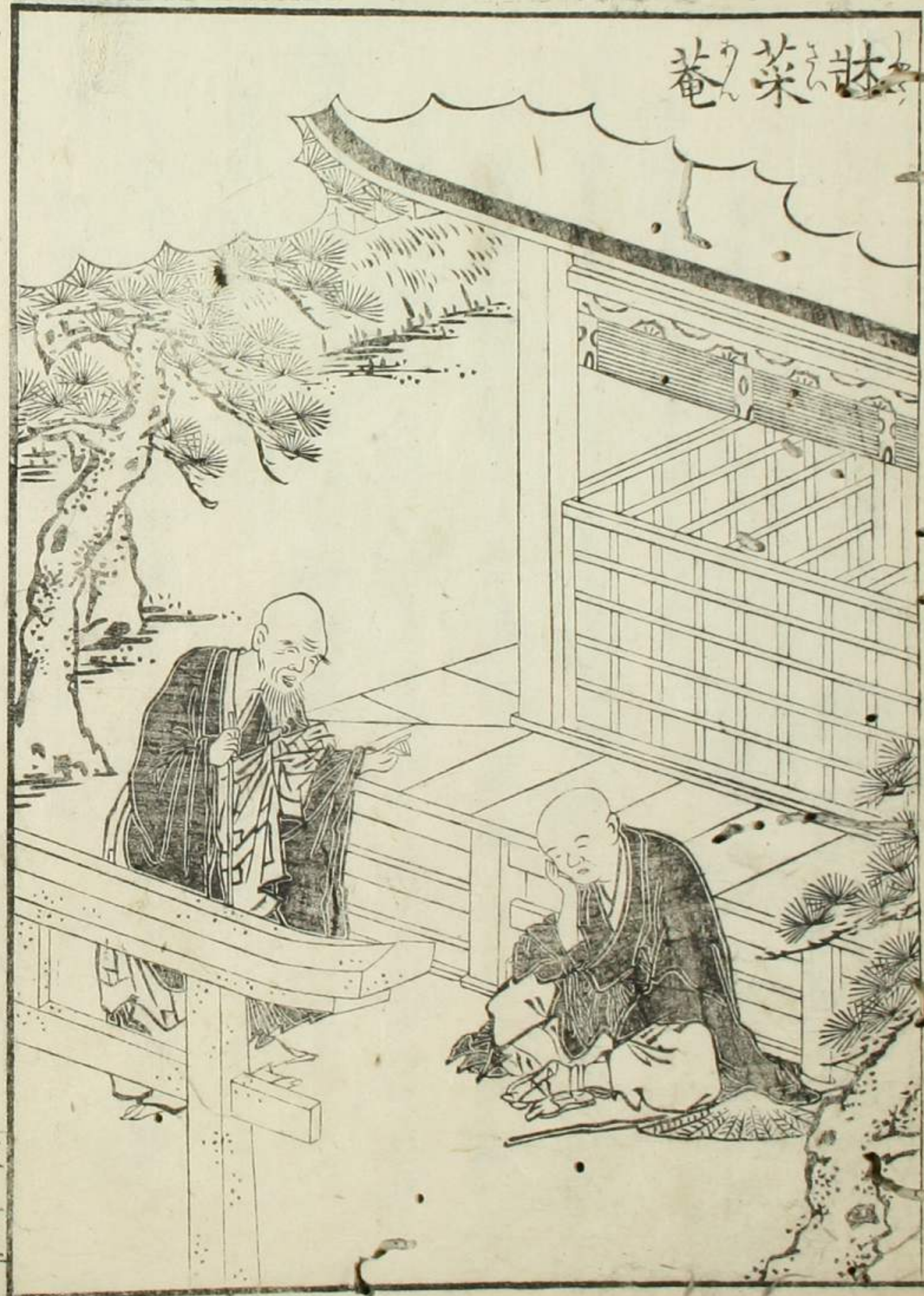
この老僧打受ひて

素てこれの爰も火宅の宿なれと云とめて位とすは

とかく此物語は東乃空もちりくと夜も何事なれぬまの
老僧と何所へゆき久見へになりぬさうりたれは空ありや
くサひもひて爰も菴をむとひ位もひちりやなん今も

自畫擧の像其所にあり

其讚曰詩情禪味俱無能龍寶山中滅大燈盲女艶歌欺
樓子虚堂七世菴苴僧
諸徒圖余陋質請讚不免自許文明六年五月大
澤七世東海順一休天下老和尚



住吉系道案内

○大坂よりの本街道と堺筋通りと南へ日本橋を渡り

先すくぬ長町と南出離を 東へ天王寺 西へ今宮 行當り坂西へ下

ゆき今宮村れの辻を左へ一筋道則足本街なり

一之巻みくし

○公齋橋通りを南へ公奇ばり渡りすくぬ野へ出る 難波 新地

んばの沖蔵社前を今宮へ出る左の方廣田の社 図縁記

蛭子社右の方に有 図縁記 東へ行右の札乃辻へ出る

是より右の本海道なり

○廣田社

祭神五座

住吉

表筒男 中筒男 空筒男

廣田

天照大神 荒懸

六幡譽田天皇 南宮大山咋八社 高皇產靈尊 則武庫郡廣田の社同神なり

○蛭兒社 祭神三社。蛭兒尊 素盞鳥尊 大日靈尊 是也

也日本書記曰伊弉諾尊伊弉冊尊為夫婦生蛭兒便載葦

船而流之又曰蛭兒雖已三歲脚猶不立故載之天磐椽樟

船而順風放棄云云二十二社註疏云西宮蛭兒社相殿之

神二座事八十神右大穴遲神左俗謂夷三郎者伊弉諾尊

伊弉冊尊生日神次生月神次生蛭兒故謂三郎以容異相

号夷云云

浪華の俗此社高商の神と稱奉り例年正月十日の

日福得と祈るとて貴賤雅俗群さんる車後一當

村々々々合法が過安居宮一心寺清水或は浮瀬福屋

かんといふよりけりけりも人の行ぬ櫻もなく十日戎号して西

廓江南の青樓より妓婦の宿るななんいふくといふや

くまきとこれとや花がざりいとぬやうぬ出立青とた

る竹輿群集の中と強ぬゆくと武家早あつてこのよ

似通ひたりや足かんうらけ輿と稱しはる笹の枝をせ袋

よ儀かゆり寶のけくりもの附く打うごげ金巾子の冠め

くさる千鳥の社友呼ぶときとぬと罵りてゆきとあり

たぬをぬ納まらる。御代の春哉とゆひ志うと三月廿三日

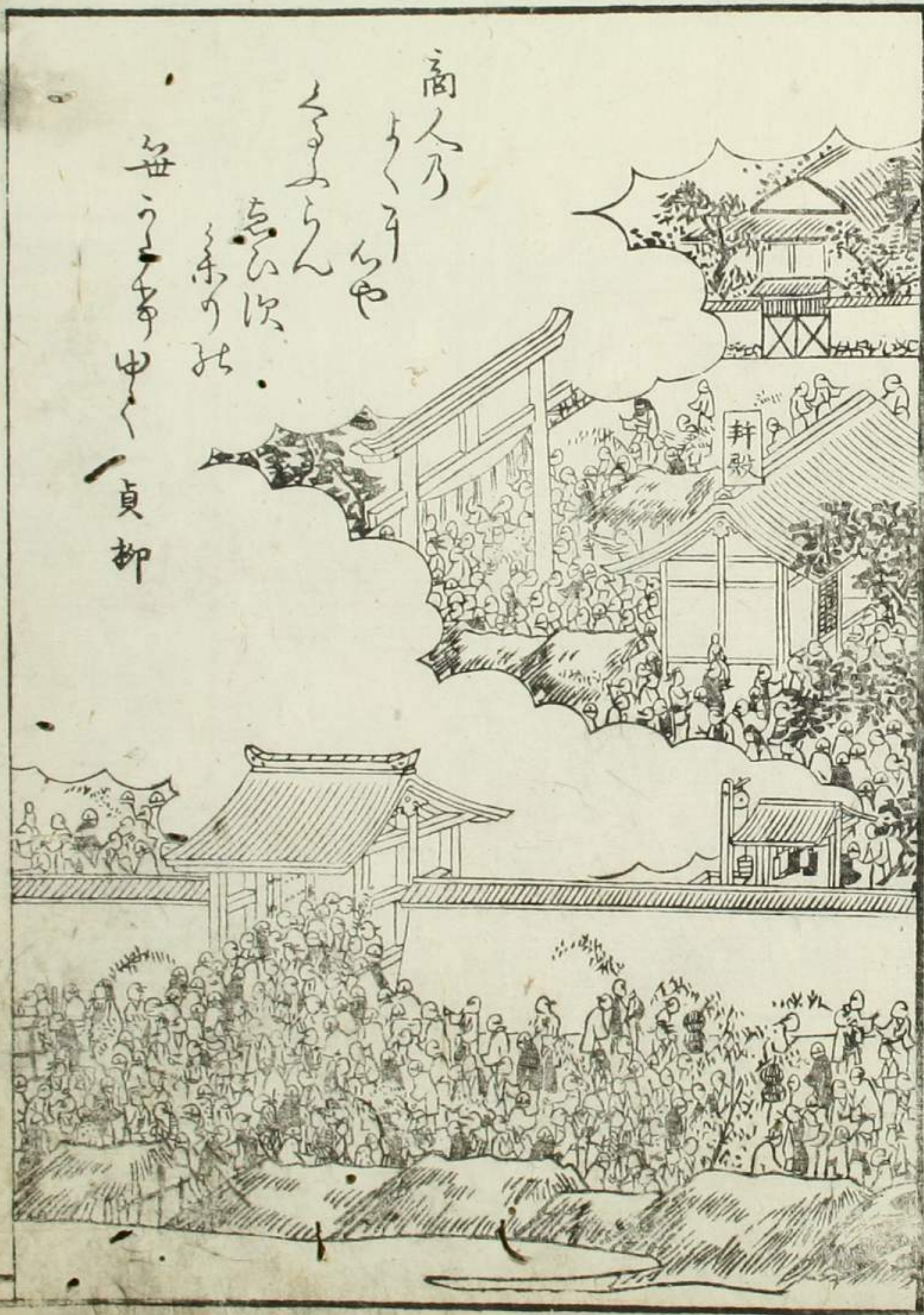
廣田社

星池と云ふ今宮
 蛭子神忍星と
 此池は鎮わらふ
 又聖徳太子傳
 天皇九年
 太子御年
 九歳夏六月
 人にて奉りて
 曰く連八嶋
 と云ふの有奇
 すと云ふ世は
 人有り素りて
 相和く争
 ずと聲あり

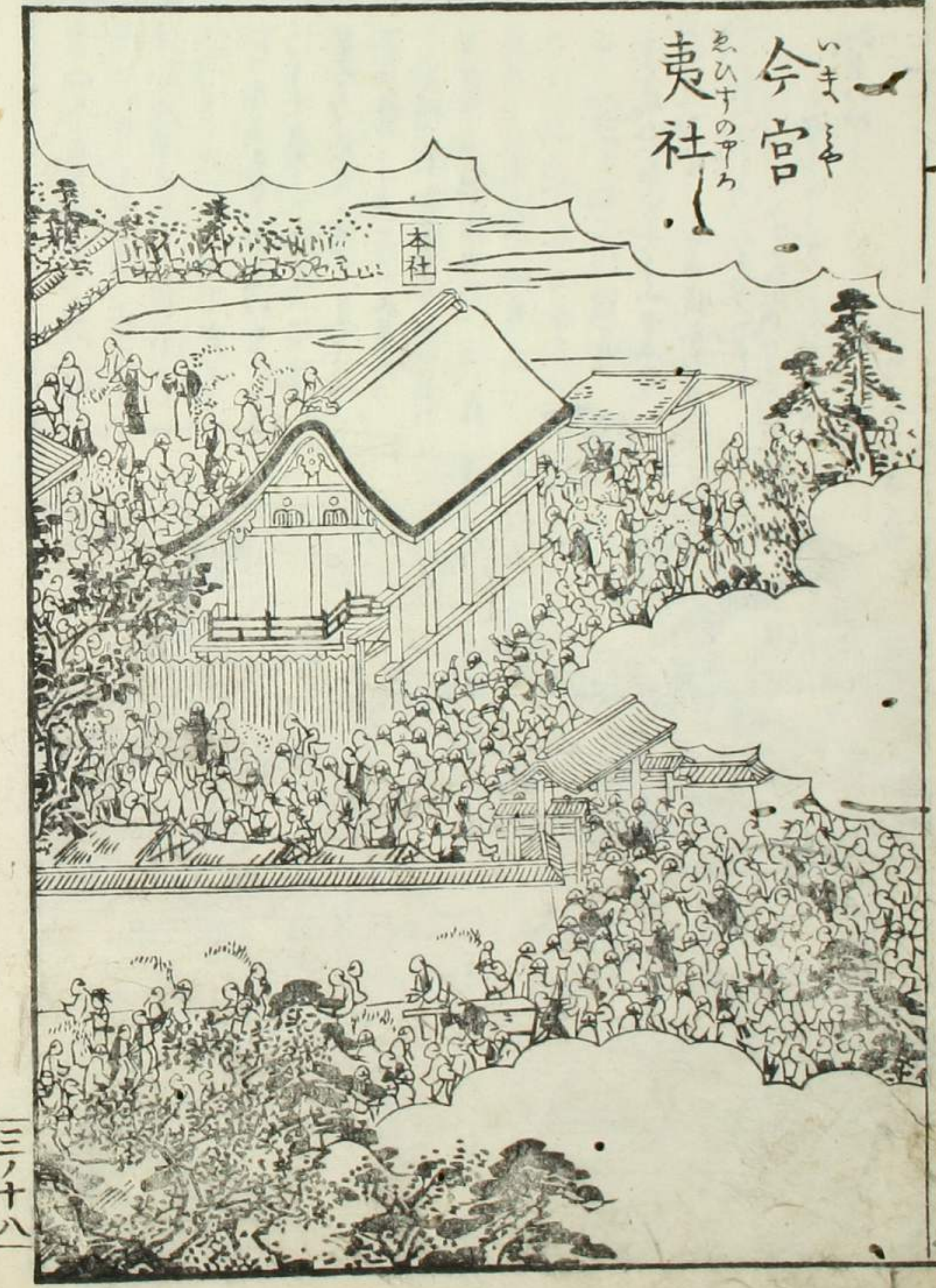


昔の人の音よゆらゆら八嶋
 星と云ふとて過るれば
 住名此池よりて曉海中
 入物有て火のくみで光を
 ぬつた子天白との存のり
 付りて奉りて曰是の星
 星あり天皇嘗て是を
 太子奉りて曰くみ星あり
 と云ふ象五色かり家星の
 色するも東本也と云ふ色
 赤くも南火也此星あり
 て化して人成て童子の
 中又交て好て作伝奇
 未承の事と云ふ星見
 早に天皇と云ふ悦み其御
 我道ありと云ふの好む
 と云ふの好むの好む
 と云ふの好むの好む
 おつり南ありと云ふの好む

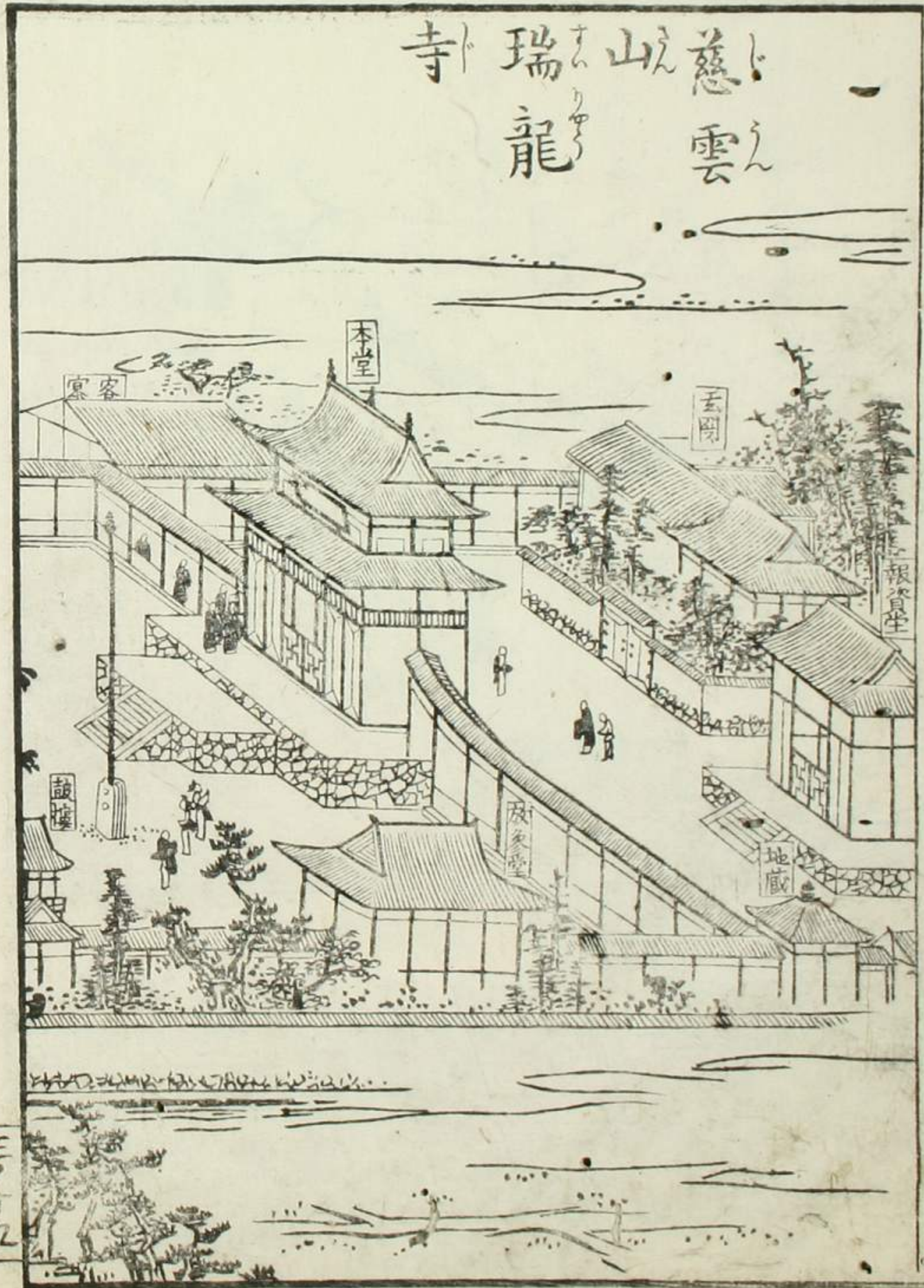
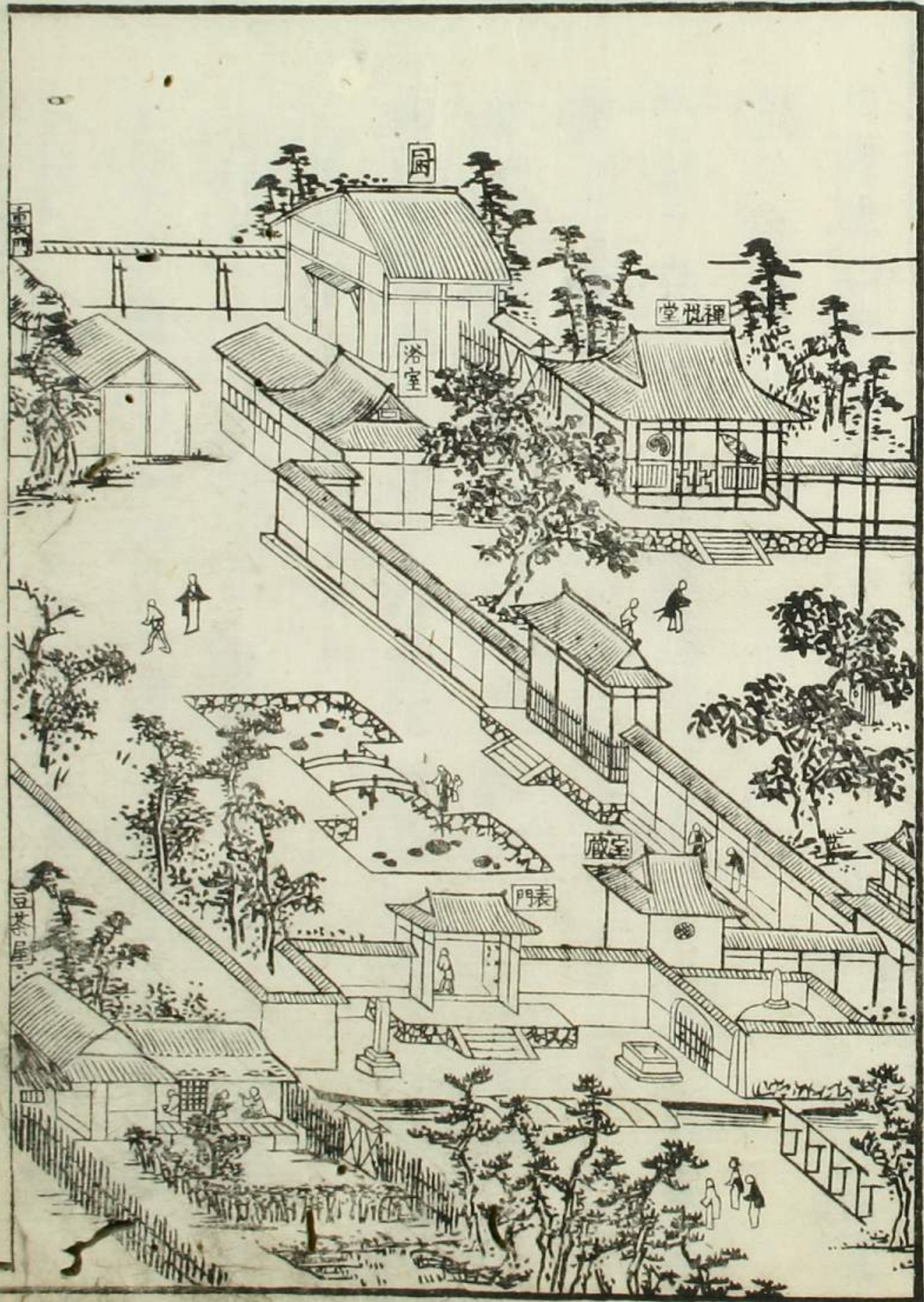




商人乃
 くるり
 くるり
 くるり
 くるり
 毎うらま
 申く
 貞柳



いま
 今宮
 夷社
 本社



午刻神拜音楽有り九月十八日流滴馬豊後相撲等
是日神輿天王寺石の鳥井にて臨幸あり常の神拜
社役等と天王寺より勅使あり歴世 御朱印地にて
土倍今宮殿と稱し奉る

○道頓堀と西へ橋と渉りたへ川端と難波村へ入る右
慈雲山瑞龍寺 鐵眼と稱れあり門前小料理亭あり
茶家と号村中川有本津とらんばの境なりまぐら本
津村と南へ出るとまき野道と行是を中道と云ふ本街
道の西手なり

○慈雲山瑞龍寺 本尊薬師如来 薬師と云ふ 難波 安置

禪宗黄檗の末院鐵眼和尚の同基也二世寶州和
尚諸堂以増建し其功全く備り

○天王寺南門より庚申堂 固有乃方へ行少し右下り南
安培野街道なり天王寺南門より土塔の宮有國々街道小
王子社 固有松蟲塚 経塚 大名塚 小町塚 播磨塚 各由來
等あり左より万代池 固有アツて住吉社 人町 歩 東の鳥井
より系るなり

○庚申堂 天王寺南門より南より青面金剛童子梵天
帝釋三申四鬼の正面にて薬師觀音地藏安置 庚
申は日と貴賤羣系するや 文武天皇大寶元



土塔の社



一對の祭禮

瑞龍山

号

傍に土塔塚

土塔社



土塔宮天王寺南大門の下にあり祭禮

祇園牛頭天王内佛を聖徳太子

薬師如来地藏菩薩を聖徳

太子舞樂の面を納り

神寶を當村の氏神

りて往昔の山鉾

波一美

敷祭禮

執行はれ土塔會

洛乃祇園會と

とく々もこの
古跡のつと
り傳ふ



安倍野街道

あへの
安倍野
村

むかし
兼好法師
よのころ
やまきとい
ひに
定むと
うとん一
月
あつと二月
住とも
偶居し
里俗と文
つゆの
造と城と

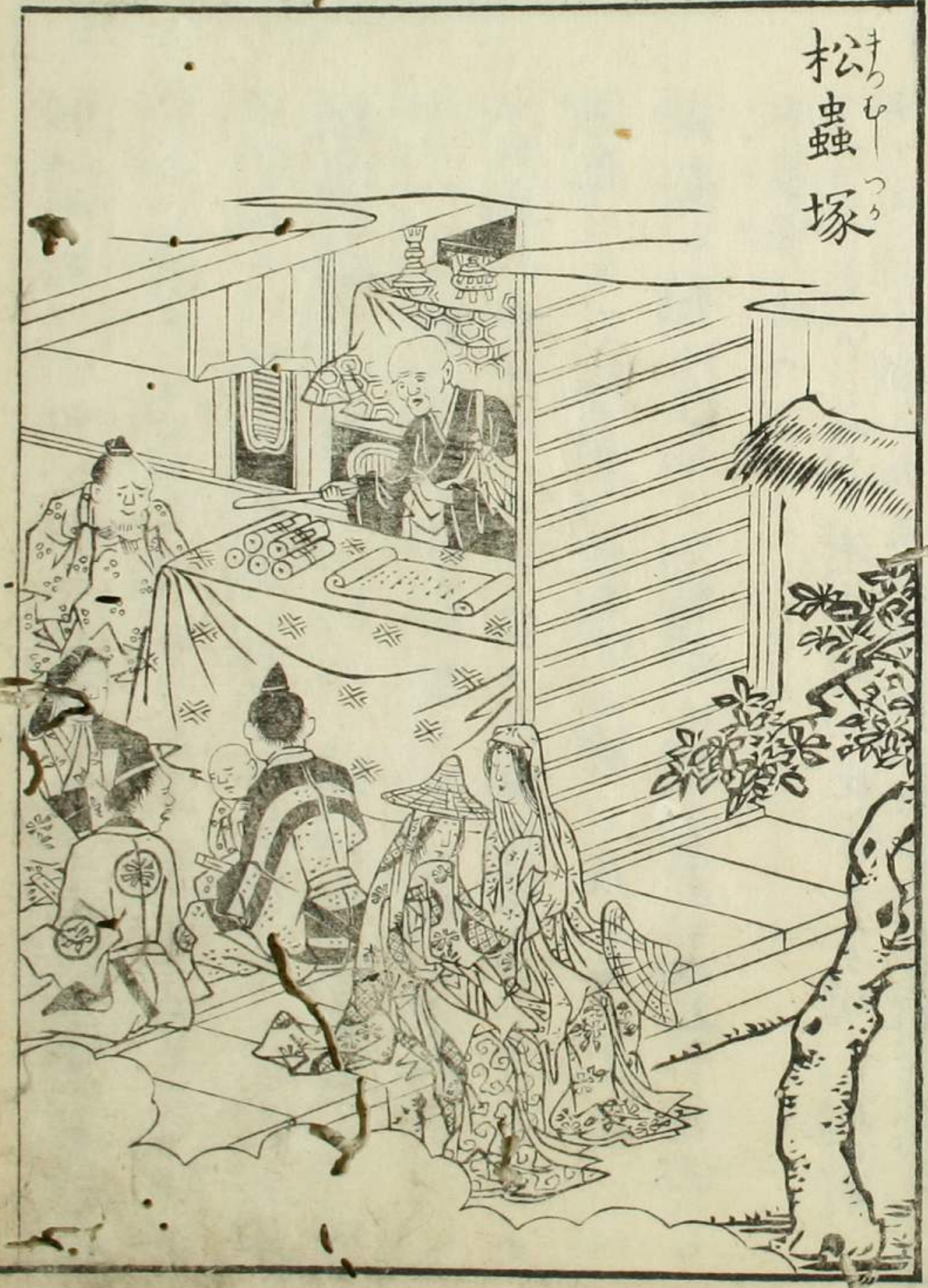


三ノ廿三

年正月七日庚申天童わすくり天王寺入住侶民部
 都毫範又祭紀河命に今に至て一千有余年庚申の
 祭りおえり
 酉陽雜俎に云く凡庚申の卯三戸人の過とて七度
 庚申の卯三戸を云ふ三度庚申の卯三戸に
 依りて又太平廣記に云く彭と三戸の姓常人の身の中
 居て其罪と云く三戸祭と云く庚申の卯乃至とて上帝の御故
 仙夢を云く三戸の身の中にある人の善悪はよく考庚申の
 卯とて三戸の野のいすに所の取曹の宮と云く三戸の野の
 告くはやすた大なる一紀十二年の壽命を云く三戸の野の
 兼六十日の命は云く三戸の野の故と云く庚申の夜はよもすつづつ云
 三戸と云く三戸の野の

○王子之社 安倍野街道より祭る所熊野王子なり
 皇都より紀州牟婁郡みづの間の九十九所王子の祭
 る其第一の社なり

松虫塚



○松虫塚

阿倍野街道あり其傳曰後鳥羽院
宮女鈴虫松虫とて二人ありあり美目ありく
ゆまゆまといひたりて帝の御座をえ
其以法也上人 都東山黒谷の菴室とて別時
心成生ドやうはくろくときり捨出家
逆鱗ありてかの上人と土佐の國へた
蟲定々菴河むとひて生涯送るるを
松虫塚とす

一説にいひたりたり伴ひて此地邊とゆき
月の色清く澄て松虫の聲面白

たよりしん跡をたどり居申遊て跡を
たよりしん跡をたどり居申遊て跡を
たよりしん跡をたどり居申遊て跡を

○經塚

同所みり 俗傳云聖徳太子經文一字二石
書寫一室之集納て 塚と成る

○大名塚

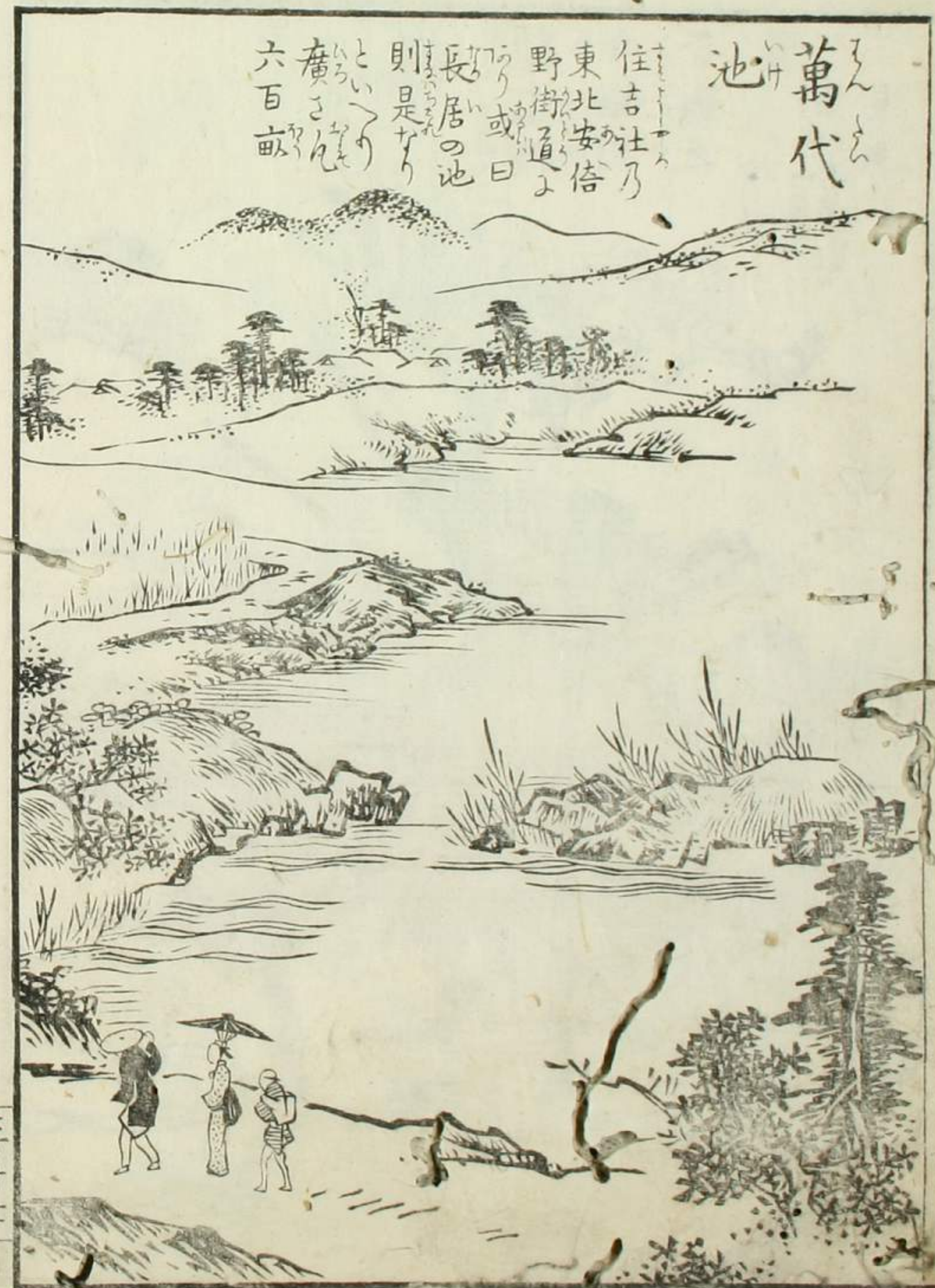
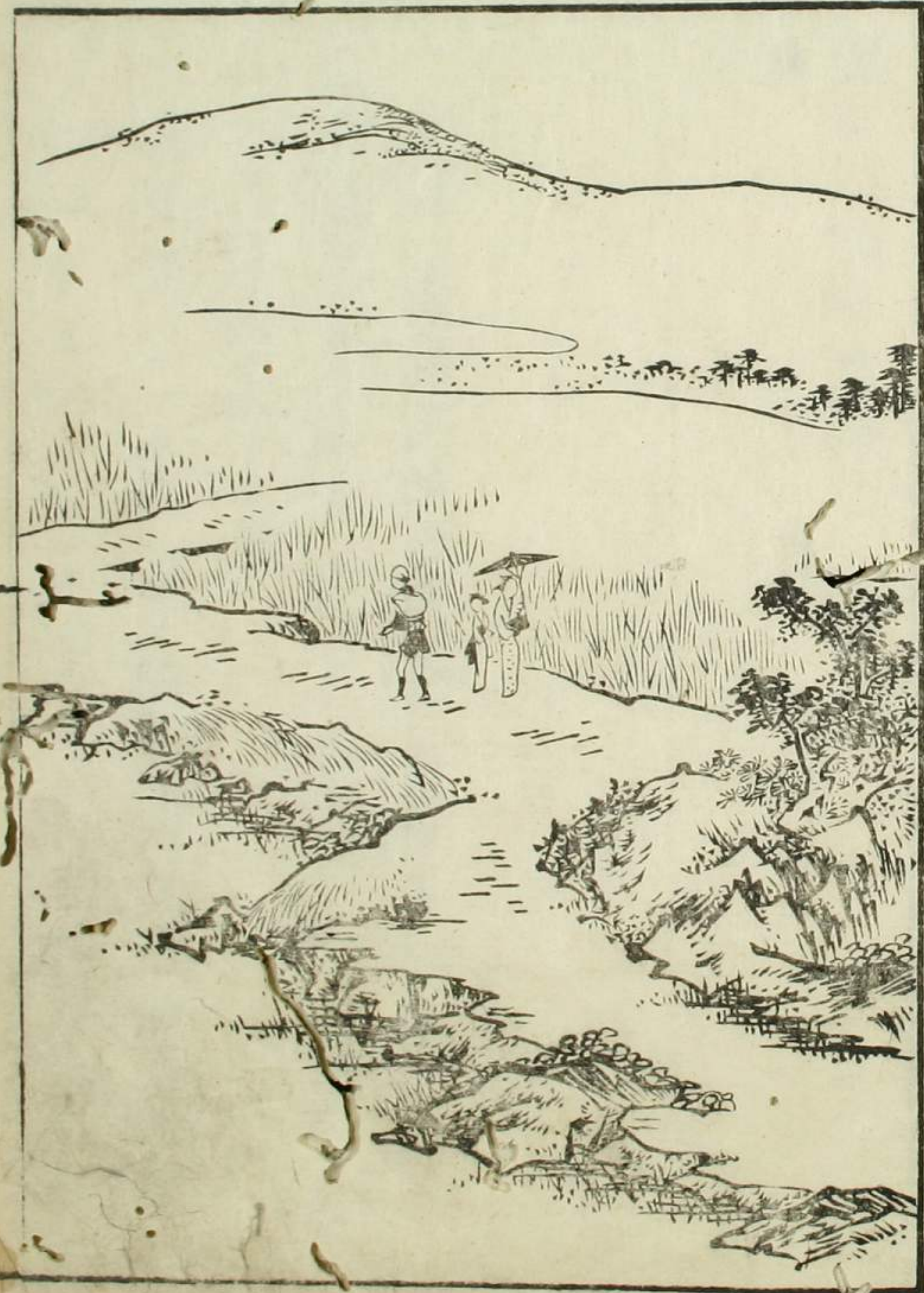
同所みり 北畠中納言源顯家卿の古墳
卿と正二位大納言北畠准后親房卿の長男也天弘三年
陸奥の國司兼鎮守府將軍と成る建武丙子の春賊
師と稱して帝叡山々御幸なる顯家義定正成等と是
京師を破り逐て豊島河原に戦ひ賊と西海に走らし
詔して征夷將軍とす 三月中納言兼拜に又鎮守府大將軍



顯家卿
 安野の
 合戦之
 圖
 車八太平記
 見也



任凡則任四少帝南狩の時結城道忠を以率して上
 野利根川に戦ふ遂に鎌倉に陷驅て濃州黒血川に至る
 戦して利わん勢州と歴て南都に屯て般若坂に戦ひま
 利は寸遂に堺浦に屯して軍を進めて差入るに時弘四年
 五月二十二日也帝甚く痛くを以從二位とゆくりりりりり



○小町塚 同所より此塚小町古墳なりと云傳
○播磨塚 同所よりむり播磨の守みけり人の塚や
といり其證詳なり次

○道頓堀と西へ幸町の町より穰多村津守新田
て住吉の濱邊長峽の橋出る是濱邊街道なり

住吉名勝圖會卷之三終

